第3回むつき庵はいせつケア大賞のエントリー募集

今年は３月、１０日に「第２回むつき庵はいせつケア実践報告会」を開催いたしました。２００名を超える方々にご来場いただき、盛況のうちに無事に終了することができました。実践報告はどれも素晴らしいもので、施設での実践や病院での取り組みなど学びの多いものでしたし、いずれもケア賞にふさわしい内容でした。

そこで平成２４年度も引き続き、「第３回むつき庵はいせつケア実践報告会」を開催する運びとなりました。１人でも多くの方々に日頃の実践をご報告いただければと、ご応募やご参加をお待ちしております。

開催日：２０１３年　３月　９日（土）・１０日（日）

場　所：京都社会福祉会館　４階ホール

エントリー受付：１１月末日まで

※当日の発表時間は各１５分程度です。

詳細は、むつき庵までお尋ねください

平成24、25年度オムツフィッター研修のご案内

平成２４年度は、４月より前期２級研修、６月より第３期１級研修がスタートし、受講生のみなさんは熱心に学びを深めています。通常年に１回開催予定の１級研修ですが、多くの方に受講ご希望いただき、平成２５年度にも開催が決定しています（既に定員を満たしております。キャンセル待ちご希望の方はお問合せください）。

３級研修、２級研修、共に定員に達してしまうのが早い状況です。みなさんにはご不便をおかけしますが、ご希望の方は早めにお申込みいただきますよう、お願い申し上げます。

★受講費：各講座２０，０００円　※交通費・ご宿泊費は含まれません。　※研修会場は京都社会福祉会館他

★お申込みは各講座とも定員になり次第、締め切らせていただきます。なお、会場等は変更することがあります。

【3級研修】

24年12月　3～　4日（京都／月・火曜日）

25年　2月　4～　5日（京都／月・火曜日）

25年　4月　8～　9日（京都／月・火曜日）

25年　6月 10～11日（京都／月・火曜日）

【平成 25 年度　前期2級研修】（すべて京都会場）

A講座：　25年　8月　5、　6日（月・火曜日）

B講座：　25年　9月　9、20日（月・火曜日）

C講座：　25年10月21、22日（月・火曜日）

※平成25年度前期2級研修は、まもなく定員となります。
なお、平成24年度後期2級研修（2012年12月～）は、既に定員を満たし、キャンセル待ちをしていただいております。

特別講習会のお知らせ

今年は、3つの特別講習会を開催いたします。第1回、第2回は理学療法士の方を、第3回は看護師の方を講師にお迎えし、それぞれテーマの異なる講義を展開していただきます。第1回は7月2日、田中久美子さんにご講義いただき、盛況に終えられました。第2回、第3回も是非、ご参加ください。お申し込み・お問い合わせはむつき庵までお願いいたします。

9月17日（月・祝日）　13時～17時　　9月18日(火)　9時30分～16時30分

講　師：**加島　守さん**　理学療法士　高齢者生活福祉研究所主宰

会　場：京都社会福祉会館　3階　第5会議室

受講料：15，000円（オムツフィッターの方は14，000円です）　　定員：40名（定員になり次第締め切ります）

内　容：「排泄」と「片麻痺の方の排泄ケア」
「ポータブルトイレ再考」（なぜ、ポータブルトイレを使うのか、その理由を考察）

11月30日（金）　10時～17時

講　師：**山口　昌子さん**　看護師　NPO 快適な排尿をめざす全国ネットの会　理事

会　場：京都社会福祉会館　3階　第5会議室

受講料：6，000円（オムツフィッターの方は5，000円です）　　定員：40名（定員になり次第締め切ります）

内　容：「自己導尿の意味とその方法」

平成23年度オムツフィッター研修　２級論文を一部紹介します！

平成２３年度の２級研修も無事２月に終わり、受講者の方々から素晴らしい論文をご提出していただきました。その中から３名の方の論文を一部抜粋ですが、ご紹介させていただきます。

森見　美幸　さん　　介護職

私たちはヘルパーとして、また仕事として利用者さんに関わり、当たり前のようにオムツ交換をしてきました。仕事として陰部を洗浄し、便を取り相手の気持ちなどを考える事もなく、感情を察知することもせず、ただ「物」のように関わって来たように思います。２級研修を受け「される側の気持ち」「介護を受けている人達の思い」を考えるようになり自分たちが行ってきた介助についてもう一度考えるべきだと思いました。（中略）

私たちにとっては介助をすることは１日の内の数時間だけですが、家族にとってはとても長い時間です。いろんな家族を見る中で、なんで・・？と思う家族もあるけれどその方たちもいろんな感情と戦いながら日々の生活を送って居られます。私たちは「介護される側」「介護する側」のどちらの立場にも立ち、思いを聞き、アドバイス出来るように関わっていくことも必要なのだと感じました。

土川　澄子　さん　　看護職

研修でオムツをあてることは、その方の人生にまで関わることを知りました。「オムツをあてられている人」でなく、「〇〇さん」という一人の人格を持った方が、オムツをしなければならなくなった状況にあるという事を、改めて教えてもらいました。（中略）

研修が終わるたびに、入所者の方がひとりずつ見えてきた感じがします。

研修の内容を看護師仲間に伝えるために、オムツの正しいあて方の学習会が行われました。ポジショニングでは、緊張の強い方のあて枕を工夫し、緊張が解けてくるときの喜びをみんなで共有できました。さて次の方にはどうする？と色々悩みながら、考える事が楽しくなっていたようにも思います。

岸田　誠司　さん　　介護職

自分では当たり前に思っていた事が、実は全然当たり前ではなかったこと、人間って、ほんとに良くできていて、不思議で、まだまだ分からないことが、たくさんあるし、可能性は未知数であることを知りました。（中略）

この研修に参加したそもそもの目的は、道具についての知識を深めることでしたが、確かに道具の知識は増えて、目的は達成できたと思いますが、それよりも大事なことが、道具を知る以前に、高齢者の心と体を知ること、知ろうとする関わりが何より大切なことを知りました。「寄り添う」とは、僕の施設でもよく言いますが、空虚というか、よく意味が分かりませんでしたが、この相手を知ろうとする関わりが、「寄り添う」ことに繋がるでしょうし、介護の未来を作っていくのだと思いました。